

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年8月10日

【四半期会計期間】 第66期第1四半期(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

【会社名】 株式会社タチエス

【英訳名】 TACHI-S CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 中山太郎

【本店の所在の場所】 東京都昭島市松原町三丁目3番7号

【電話番号】 (042)546-8117

【事務連絡者氏名】 代表取締役副社長 野上義之

【最寄りの連絡場所】 東京都昭島市松原町三丁目3番7号

【電話番号】 (042)546-8117

【事務連絡者氏名】 代表取締役副社長 野上義之

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第65期 第1四半期 連結累計期間	第66期 第1四半期 連結累計期間	第65期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (百万円)	64,171	67,782	282,525
経常利益 (百万円)	1,987	1,936	12,337
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益又は親会社株主に 帰属する四半期純損失() (百万円)	936	786	7,262
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	4,169	1,052	7,197
純資産額 (百万円)	82,678	90,932	92,877
総資産額 (百万円)	152,944	171,545	173,650
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損失金額() (円)	26.43	22.19	204.94
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	51.2	50.1	50.5

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

2 【経営上の重要な契約等】

(株式取得による企業結合)

当社は、平成29年4月28日付で、富士機工株式会社のシート事業を吸収分割により承継する会社の株式の全てを取得し、当社の子会社とするため、株式譲渡契約を締結いたしました。

(重要な関連会社株式の売却)

当社は、平成29年4月28日付で、株式会社ジェイテクトが富士機工株式会社の普通株式を金融商品取引法による公開買付け(以下、「本公開買付け」といいます。)により取得することに関して、本公開買付けの応募に関する契約を締結いたしました。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済・金融政策等により企業収益や雇用環境に改善が見られるなど、緩やかながら回復基調で推移いたしました。一方、海外におきましては、英国のEU離脱問題、米国新政権の政策動向などによる政治・経済の不確実性の高まりや、中国を中心とした新興国における景気下振れリスクの懸念もあり、先行きは依然として不透明な状況にあります。

当社グループが関連する自動車業界におきましては、国内市場では乗用車、軽自動車ともに販売は堅調に推移いたしました。海外におきましては、中国市場では小型車向け減税措置縮小の影響もあり販売の伸びに鈍化が見られ、米国市場においても減速感が強まりましたが、東南アジア市場、ブラジル市場では販売台数が上向き改善傾向が見られました。

このような経営環境のもと、当第1四半期連結累計期間における業績は、国内を中心に販売が堅調に推移したことにより、売上高は677億8千2百万円(前年同四半期比5.6%増)となりました。利益面につきましては、海外における為替や販売製品構成の変動影響等により、営業利益は3億2千7百万円(前年同四半期比61.4%減)、経常利益は19億3千6百万円(前年同四半期比2.6%減)となりました。また、関連会社株式売却の意思決定に伴い税金費用を認識したことにより、親会社株主に帰属する四半期純損失は7億8千6百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益9億3千6百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

日 本

既存受注車種の販売が堅調であったことにより、売上高は294億4千7百万円(前年同四半期比13.9%増)、営業利益は5億7千7百万円(前年同四半期は営業損失3億4千6百万円)となりました。

北 米

売上高は131億3千7百万円(前年同四半期比3.2%増)、営業利益は3億2千3百万円(前年同四半期比26.4%減)となりました。

中 南 米

販売は底堅く推移したものの、為替変動の影響等により、売上高は133億5千4百万円(前年同四半期比12.0%減)、営業損失は11億4千2百万円(前年同四半期は営業損失2億6千8百万円)となりました。

欧 州

売上高は4億8千万円(前年同四半期比11.8%増)、営業損失は4億6千3百万円(前年同四半期は営業損失3億5百万円)となりました。

中 国

売上高は104億7百万円(前年同四半期比12.9%増)となりましたが、販売製品構成の変動影響等により営業利益は9億7千5百万円(前年同四半期比28.3%減)となりました。

東南アジア

売上高は9億5千5百万円（前年同四半期比25.1%増）、営業利益は6千2百万円（前年同四半期は営業損失61万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、1,715億4千5百万円と前連結会計年度末に比べ21億4百万円減少しております。これは主に、受取手形及び売掛金が20億8千7百万円減少したことによるものであります。

負債合計は、806億1千3百万円と前連結会計年度末に比べ1億6千万円減少しております。これは主に、流動負債その他が30億2千4百万円増加したものの、支払手形及び買掛金が38億5千万円減少したことによるものであります。

純資産合計は、909億3千2百万円と前連結会計年度末に比べ19億4千4百万円減少しております。これは主に、利益剰余金が11億4千万円、為替換算調整勘定が7億2千2百万円それぞれ減少したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

基本方針の内容

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業理念及び企業価値の源泉を理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保、向上していくことを可能とする者であることが必要であると考えております。また、当社の支配権の移転を伴う買収提案についての判断は、最終的には当社の株主全体の意思に基づいて行われるべきものと考えております。

もとより、当社は、当社株式等について大規模買付行為がなされる場合、当社の企業価値の向上や株主共同の利益に資するものであれば、これを否定するべきでないと考えておりますが、大規模買付行為の中には、係る行為の目的が当社の企業価値・株主共同の利益を明白に侵害する恐れのあるもの、当社の株主に株式の売却を事実上強要する恐れのあるもの、当社の取締役会や株主に対して当該行為に係る提案内容や代替案等を検討するための十分な時間や情報を与えないものなど、当社の企業価値・株主共同の利益を毀損する恐れのあるものも想定されます。

当社は、このような企業価値・株主共同の利益に資さない大規模買付行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であり、このような者による大規模買付行為に対しては、必要かつ相当な措置をとることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保する必要があると考えております。

基本方針の実現に資する特別な取組み

当社は、創業以来、自動車シートの専門メーカーとして、多くの自動車メーカーよりお取引をいただいております。このビジネスの特長を活かして、今日まで事業を維持発展させてまいりました。

当社が関連する自動車業界におきましては、一段と成熟化が進み、今後国内での生産量の増加は期待できない大変厳しい状況にあります。こうした環境の中、得意先自動車メーカー各社は生き残りを賭けた新たな中長期の成長戦略を掲げ、グローバルで活動を推進しており、当社もこの新戦略の流れ、とりわけ新興国を中心とした事業展開に挑戦することが、生き残りをかけた正念場であると認識しております。

このような状況のもと、競争力のあるコストを達成するための体質強化を図り、得意先のニーズに対してシート全体の提案ができ、グローバルで生産できる『グローバル・シート・システム・クリエーター』として、『選ばれ続ける企業』となることを、当社グループの目指す姿として活動に取り組んでおります。

また、コーポレート・ガバナンスの強化としては、経営責任の明確化、経営の効率化を図るため、取締役の任期を1年にすると共に執行役員制度を導入しております。また、経営者や特定の利害関係者の利益に偏らない社外取締役2名（弁護士1名、公認会計士1名）及び社外監査役2名（弁護士1名、公認会計士1名）を選任し、客観的かつ専門的な視点で経営を監視しています。

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みの具体的な内容の概要

当社は、当社株式の大量取得行為を行おうとする者に対しては、大量取得行為の是非を株主の皆様が適切に判断するために必要かつ十分な情報の提供を求め、あわせて当社取締役会の意見等を開示し、株主の皆様の検討のための時間の確保に努めるなど、関係法令の許容する範囲内において、適切な措置を講じてまいります。

取組みに対する当社取締役会の判断及び理由

上記及びに記載した内容は、上記に記載した基本方針に従い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に沿うものであり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は12億2千8百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	140,000,000
計	140,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	36,442,846	36,442,846	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株 であります。
計	36,442,846	36,442,846		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年6月30日		36,442		9,040		8,592

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができないことから、直前の基準日である平成29年3月31日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成29年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,004,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 35,408,200	354,082	
単元未満株式	普通株式 29,946		
発行済株式総数	36,442,846		
総株主の議決権		354,082	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社の保有の自己株式8株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社タチエス	東京都昭島市 松原町三丁目3番7号	1,004,700		1,004,700	2.76
計		1,004,700		1,004,700	2.76

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	40,919	40,311
受取手形及び売掛金	43,529	41,441
有価証券	177	177
商品及び製品	1,850	1,995
仕掛品	525	639
原材料及び貯蔵品	7,322	7,869
その他	8,045	7,737
貸倒引当金	88	82
流動資産合計	102,280	100,090
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	11,293	11,046
機械装置及び運搬具（純額）	11,065	10,262
その他（純額）	10,434	10,606
有形固定資産合計	32,793	31,915
無形固定資産		
のれん	57	50
その他	1,181	1,202
無形固定資産合計	1,239	1,253
投資その他の資産		
投資有価証券	27,438	27,824
その他	10,001	10,562
貸倒引当金	103	100
投資その他の資産合計	37,336	38,286
固定資産合計	71,369	71,455
資産合計	173,650	171,545

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	49,393	45,543
短期借入金	805	809
未払法人税等	1,864	1,046
役員賞与引当金	85	85
その他	16,632	19,656
流動負債合計	68,781	67,140
固定負債		
長期借入金	6,500	6,500
役員退職慰労引当金	15	16
退職給付に係る負債	437	397
その他	5,039	6,559
固定負債合計	11,992	13,473
負債合計	80,773	80,613
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,040	9,040
資本剰余金	9,247	9,247
利益剰余金	60,240	59,099
自己株式	1,441	1,441
株主資本合計	77,087	75,946
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,810	4,918
為替換算調整勘定	5,713	4,990
退職給付に係る調整累計額	42	87
その他の包括利益累計額合計	10,566	9,997
非支配株主持分	5,223	4,988
純資産合計	92,877	90,932
負債純資産合計	173,650	171,545

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	64,171	67,782
売上原価	58,988	62,634
売上総利益	5,182	5,147
販売費及び一般管理費		
従業員給料及び手当	1,111	1,104
発送運賃	447	446
その他	2,775	3,269
販売費及び一般管理費合計	4,334	4,820
営業利益	848	327
営業外収益		
受取利息	90	97
受取配当金	109	130
持分法による投資利益	560	739
為替差益	335	587
雑収入	63	84
営業外収益合計	1,158	1,639
営業外費用		
支払利息	11	21
雑支出	8	9
営業外費用合計	19	30
経常利益	1,987	1,936
特別利益		
固定資産売却益	5	9
子会社清算益	161	-
特別利益合計	167	9
特別損失		
固定資産処分損	22	12
減損損失	-	287
投資有価証券評価損	28	-
ゴルフ会員権評価損	2	-
特別損失合計	53	299
税金等調整前四半期純利益	2,101	1,646
法人税、住民税及び事業税	805	994
法人税等調整額	206	1,046
法人税等合計	599	2,040
四半期純利益又は四半期純損失()	1,501	394
非支配株主に帰属する四半期純利益	565	391
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	936	786

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	1,501	394
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,094	108
為替換算調整勘定	3,074	816
退職給付に係る調整額	1	13
持分法適用会社に対する持分相当額	1,503	36
その他の包括利益合計	5,671	657
四半期包括利益	4,169	1,052
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,353	1,355
非支配株主に係る四半期包括利益	184	303

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入に対する債務保証額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
浙江吉俱泰汽車内飾有限公司	228百万円 [14,000千RMB]	230百万円 [14,000千RMB]
フジキコウ タチエス メキシコ S.A. DE C.V.	183百万円 [30,600千MXN]	190百万円 [30,600千MXN]
浙江富昌泰汽車零部件有限公司	4百万円 [278千RMB]	3百万円 [193千RMB]
計	415百万円	424百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
減価償却費	1,245百万円	1,251百万円
のれんの償却額	7百万円	7百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月23日 定時株主総会	普通株式	283	8	平成28年3月31日	平成28年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月23日 定時株主総会	普通株式	354	10	平成29年3月31日	平成29年6月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							調整額 (注)1	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)2
	日 本	北 米	中 南 米	欧 州	中 国	東 南 ア ジ ア	計		
売上高									
外部顧客 への売上高	25,850	12,728	15,180	429	9,217	763	64,171		64,171
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	786	151	1,505	44	2,342	339	5,169	5,169	
計	26,637	12,880	16,685	474	11,559	1,103	69,340	5,169	64,171
セグメント利益 又は損失()	346	439	268	305	1,360	0	878	30	848

(注) 1 セグメント利益又は損失()の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							調整額 (注)1	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)2
	日 本	北 米	中 南 米	欧 州	中 国	東 南 ア ジ ア	計		
売上高									
外部顧客 への売上高	29,447	13,137	13,354	480	10,407	955	67,782		67,782
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	1,040	73	1,095	7	2,028	510	4,756	4,756	
計	30,487	13,210	14,450	487	12,436	1,465	72,538	4,756	67,782
セグメント利益 又は損失()	577	323	1,142	463	975	62	332	4	327

(注) 1 セグメント利益又は損失()の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「欧州」セグメントにおいて、投資額の回収が見込めない機械装置の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては2億8千7百万円であります。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額()	26円43銭	22円19銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は 親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(百万円)	936	786
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額 又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額() (百万円)	936	786
普通株式の期中平均株式数(千株)	35,438	35,438

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 8月10日

株式会社タチエス
取締役会 御中

P w C あらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 戸田 栄
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 千葉 達哉
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社タチエスの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社タチエス及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。